

ラグビーW杯絶好機

静岡理工科大 通算100回目の講座

静岡理工科大学(袋井市豊沢)で二十日、通算百回目となる公開講座(中日新聞東海本社後援)があった。ラグビートップリーグのヤマハ発動機ジュビロの清宮克幸監督らがラ



グビーをテーマに話した。同大学は一九九一年の開学以来、年数回のペースで、一般市民対象の公開講座を袋井市などで開いてきた。節目の今回は、地元のエ

と持論を述べた。その

ラグビーと地域づくりなどについて語り合う(右から)清宮克幸監督、原田英之市長、野口博学長。袋井市の静岡理工科大

コパスタジアムが会場となる二〇一九年のラグビーワールドカップ(W杯)に向けて、ラグビーを通じた組織づくり、地域づくりなどを取り上げた。清宮監督は、早稲田大や、サントリー、ヤマハ発で発揮してきたチームづくりの実績を踏まえ、「チームには大きな舞台を経験させることが大切。監督の仕事はそういう場を設定して与えていくこと」

上で「皆で山を乗り越えると次の行動が変わってくる。あとはそれぞれが異なる分野で活躍していくものだ」などと思いを語った。続くトークセッションでは、原田英之市長が「W杯は街づくりのチャンス。まず応援から盛り上げ、さまざまな取り組みを通じてスポーツ文化がある街に」と思いを語ると、清宮監督は「エコパがあることで住民と地域の可能性が大きく広がる」として、W杯盛り上げへのアイデアをいくつか披露した。

野口博学長は「JR愛野駅一帯からエコパまでをおしゃれな街にしよう」と取り組んでいる女子学生たちもおり、意識を高くして市民のお手伝いをしたい」と語っていた。(正木徹)